

# 学校経営推進費 評価報告書(最終)

## 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立港高等学校
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実用英語能力検定準2級・2級の合格者数・合格率</li> <li>② 国際交流企画の回数、海外スタディーツアーの参加者数の伸び</li> <li>③ 実力判定テストの英語のGTZ(学習到達ゾーン)の比率</li> <li>④ 学校教育自己診断での肯定的回答</li> </ul>
計画名	～漕ぎ出せ 世界へ！ みなと国際人プロジェクト～

## 2. 事業目標及び本年度の取り組み

学校経営計画の 中期的目標	<p><b>1 確かな学力の育成</b></p> <p>(3) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。          ア 英語検定、漢字検定(進路部主導)を利用し、朝学習(教務部主導)を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。          ※ 検定の合格率を5Pずつ向上させ3年後には目標級の15P増をめざす。</p> <p><b>2 自己を確立し未来を切り開く力の支援→豊かでたくましい人間性の育み→夢や目標を持った生徒の育成</b></p> <p>(4) 「元気な学校づくり」特別活動や生徒会活動で自己有用感を醸成し集団や学校への帰属意識を高める。          イ 学校行事で「人を育てる」「学校が楽しい」と実感できるものにする。</p> <p>(6) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む          イ 「グローバル人材の育成」国際的な視野を育むとともに、問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力の育成をはかる。</p> <p><b>3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり → 信頼される魅力ある学校づくり</b></p> <p>(3) 広報活動と地域連携の充実          イ 地域連携を推進し地域から愛される学校をめざす。創立110周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携態勢を推進していく。</p>
事業目標	<p>令和2年度「府立学校への指示事項」の重点(2)の「グローバル人材の育成」にもあるように、グローバル化に対応した英語教育を推進し、国際共通語としての英語によるコミュニケーション力の育成を図るため、積極的な言語活動や海外研修や国際交流の受け入れを実施することは、まさに本校のめざす国際的な視野を育むとともに、問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力の育成の方策となっている。</p> <p>本校はこうした学習や交流を実施することをめざしている。こうした生徒育成の理念のもと、指標としては実用英語能力検定の2級・準2級取得を目標として掲げる。(R1英検準2級以上8名→R2同20名→R3同30名→R4同40名と3年後合格者倍増をめざす)</p>
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マルチランゲージ e-learning ルームの整備(机・椅子、タブレットなど)</li> <li>○玄関ホールにデジタルサイネージを設置。(歓迎や交流国の情報・スケジュール等が周知できるように増設)</li> <li>○英語検定に向けて授業での取り組みはもちろん、外部人材の活用により英語検定講座や英語進学講座を実施する。</li> </ul>
取り組みの 主担・実施者	<p>主担者：既存の将来構想委員会、国際交流委員会、生徒部自治会G          実施者：教頭と首席および委員会・自治会メンバー</p>

<p><b>本年度の取組内容</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ランゲージ e-learning ルームの活用…タブレットや資料を使い国際交流や異文化理解に興味のある生徒の動機づけに大きく寄与した。進学者の学習室として大きな役割を果たした。</li> <li>○ 地域への積極的な情報発信…学校説明会などで本校が国際交流に力を入れていることを紹介。</li> <li>○ 実用英語能力検定の2年1年全員受験(480名)実施…22名の準2級以上の合格者</li> <li>○ 実用英語能力検定用外部講師による英語検定講座の実施…実施し2講座で約40名が受講</li> <li>○ 探究型の総合的な学習 = 国際理解教育の講演会の開講…調べ学習や大学教授を招いての多文化共生講習実施</li> <li>○ 留学生(グローバル化をめざす中小企業の人材確保事業—大阪商工会議所)との交流…ドイツからの短期留学生を受け入れ交流実施</li> </ul> <p>コロナ禍の影響により、当初企画していたが、未実施となったもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 台湾スタディーツアー報告会</li> <li>○ 5月に台湾の高校生との交流行事(港高校内)大阪観光コンベンション協会との連携事業</li> <li>○ 公益財団法人 大阪観光コンベンション協会との連携による交流の受け入れ</li> <li>○ 11月に韓国高校生との交流行事(港高校内)大阪観光コンベンション協会との連携事業</li> <li>○ 12月に台湾スタディーツアー企画、8月にグアムなど新しいスタディーツアー企画</li> </ul>
<p><b>成果の検証方法と評価指標</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 英語検定2級合格者10名 準2級合格者30名合格をめざす。</li> <li>② 国際交流企画の回数、海外スタディーツアーの参加者数15名をめざす。</li> <li>③ 実力判定テストのGTZ(学習到達ゾーン)の比率 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 英語の学習到達度をDゾーンからCゾーンへ20P、CゾーンからBゾーンへ15P向上させる。(R1年度比)</li> </ul> </li> <li>④ 学校教育自己診断で「港高校へ行くのが楽しい」「港高校の生徒であることに誇りを持っている」の肯定的回答 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ それぞれR1年度比15P向上させる。R2年度比10P向上させる。</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>自己評価</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 3年連続で2学年全員が英検受験の実施ができた。R4年度学校経営推進費で外部講師による特別授業も3年連続で行え、5年連続で行えたことに意味があった。結果1、2年生で2級2名、準2級46名の1次合格者となり、2級2名、準2級20名の2次合格者になった。目標値(3年め目標値:2級10名、準2級30名)には届かなかったが、システムとして定着させることができ、今後に期待が持てる。……………(△)</li> <li>② 今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、地域連携や交流活動についてはほとんど行えなかった。そんな中でも実施に向かって努力・検討を続け、WEBでのオンライン国際交流会や教育庁のイベントを紹介すると、希望者の興味がかなり上がった。……(△)</li> <li>③ 3学年平均でDゾーンからCゾーンへ約12P、CゾーンからBゾーンへ8P引き上がった。(R1年度比)目標には達しなかったが、国際交流への意識付けと英語力のUPには相関がみられた。……………(△)</li> <li>④ 「港高校へ行くのが楽しい」はR4・79%(R1・60%、R2・75%、R3・75%)でR1年度比29P、「港高校の生徒であることに誇りを持っている」はR4・60%(R1・33%、R2・56%・R3・65%)でR1年度比27Pと大きく伸びた。……………(◎)</li> </ul>
<p><b>事業のまとめ</b></p>	<p>本校にはあまり根付いていなかった多文化共生や異文化理解などの考え方が、国際交流を通して学校の中に落とし込むことで、豊かな人間性を高め、人権感覚の育成にも役立つと考えたため、このプランを実施した。また、国際交流を通して英語学習の興味関心が芽生え、学力向上につながり、進路実現意識の向上につながるなどの波及効果を考慮した。</p> <p>コロナ禍で計画は進まず、活動はかなり制限されてしまったが、ランゲージ e-learning ルームの整備(机・椅子など)や英語検定に向けての授業での取り組みや外部人材の活用による英語検定講座を実施することなどで、確実に英語の学力向上や興味関心が生徒に生まれた。このことだけではないだろうが、大学・短大の進学率について、R1・42%、R4・64%と</p>

なり 22P も伸びたことで学校にはさらに元気が出てきた。「学校が好き」「学校に誇りが持てる」という気持ちに肯定的な者も約 30P も伸びた。

玄関ホールのデジタルサイネージは国際交流時における歓迎や交流国の情報・スケジュール等が周知できるように設置したが、コロナ禍でも、生徒への情報発信や学校説明会等で有効活用できている。3年間で、国際交流活動を中心とした取り組みを終えるのではなく、新たなプランを創造しつつ今後も継続的に取り組んでいきたい。